

探究的・協働的な「学びの場」の構築を目指して

【開催日程】2026 年 2 月 13 日(金)・14 日(土)

【会場】奈良女子大学附属中等教育学校

【主催】奈良女子大学附属中等教育学校, 奈良女子大学

【共催】奈良女子大学教育システム研究開発センター 【後援】奈良県教育委員会, 奈良市教育委員会

2 月 13 日(金)「全体会」「公開授業／Zone」			2 月 14 日(土)「生徒探究成果発表会」「ラウンドテーブル」	
12:30	受付		9:30	受付
12:50～13:20	全体会(先導的改革Ⅰ期 SSH の取組)		9:50	発表会説明
13:35～16:00	公開授業・研究協議 4 年英語 4 年国語(言語文化) 5 年コロキウム(総探)	Zone A)協働・共創 B)数学実践交流	10:15～12:15	生徒探究成果発表会 4 年「基盤探究Ⅰ」 5 年「基盤探究Ⅱ」 6 年・高 3「基盤探究Ⅲ・PICASO」
			13:00～15:00	ラウンドテーブル

全体会 2 月 13 日(金)12:50～13:20

< 先導的改革Ⅰ期 SSH の取組について >

「総合知」につながる資質・能力を有した科学技術イノベーター育成カリキュラムの深化と普及

本校は、2025 年度より新たに先導的改革Ⅰ期 SSH 研究開発の指定を受けました(2027 年度までの 3 年間)。今期 SSH では、4 期 20 年間の SSH 研究開発で育んできた資質・能力を、「総合知」につながる資質・能力として捉えなおし、その段階的な育成を目指してカリキュラムの再編やその評価方法の開発に取り組んでいます。また、「総合知」の育成に必要な多様な「知」が集まる「共創の場」の創出を目指しています。全体会では、本校が現在スタートさせている今期 SSH の取組と今後の展望について報告します。

公開授業・研究協議／Zone 2 月 13 日(金)13:35～16:00

< 英語科 4 年(高Ⅰ) Topic Studies II >

Discussion(Interactive talk)を通した協働的学びの創出
～教科書の学習から生まれる探究力・発信力の育成～

【授業者】松川 慈

【指導助言者】中井 弘一氏(大阪女学院大学 名誉教授)

【概要】英語コミュニケーションに該当する T.S.は、教科書を活用して、テキストのメッセージの理解を深め、そのテーマを下に生徒の考えや意見を引き出す 4 技能統合型の授業である。生徒の英語コミュニケーション能力、思考力、協働性、互いに間違いを恐れず安心して英語で活動できる生徒主体の学習の場を徐々に作り上げていくことを目指している。また、Writing(論理表現)と科目間連携することで、Debate や Discussion などの発展的な活動を限られた時間で効率よく行い、英語運用能力を伸ばすことが可能になると考えている。本時では CROSSROADⅠ Unit 7 “A Father to Refugees”の単元のまとめとして、現代社会が抱える『難民問題』について、自分たちの生活に結び付けるテーマを設定し、Group Discussion を行う。英語科の授業を単なる言語学習の機会ではなく、英語を言語ツールとして活用するための学びの場として設定し、学びを深化させるとともに、「総合知」に繋がられるようなカリキュラムを構築していきたい。

< 国語科 4 年(高Ⅰ) 言語文化 >

言語能力育成のための教科横断的な学び
—英訳古典を用いた読解指導—

【授業者】那須 充英

【指導助言者】柁木 貴之氏(北海学園大学 教授)

【概要】現行の学習指導要領で、教科横断的な学びの充実が求められている中、高等学校「言語文化」においては、「読むこと」の言語活動として、「和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動」が示された。これに伴い「言語文化」の教科書でも、英訳俳句・百人一首がコラムとして取り上げられるなど、英訳を用いた言語活動例が示されている。では、国語科における英訳を用いた読解指導は、「読むこと」において、どのような生徒の学びへとつながるのか。また、学習の基盤となる資質・能力である言語能力の育成にどのように資するのかについて考えていきたい。

< 総合的な探究の時間 5 年(高2) コロキウム >

創作からひらく学び:物語の創作から

【授業者】鹿島 大吾

【指導助言者】三藤 恭弘氏(福山平成大学 教授)

【概要】本講座は、「創作とは何か。それはどのような営為か。」という問いを一貫したテーマとして、様々なジャンルの創作について探究的・体験的な学びを展開することを目指す。これまで生徒たちは、俳句や漢詩を皮切りに、配色デザインやフォントデザイン、写真、音楽等のジャンルについて、「創作者の語り」を起点として、ときには実作者の講義から、あるときには古人の創作現場がうかがえる作品のなかから、またあるときには専門家の著書から、創作のヒントを集めて創作ワークショップを企画し、協働的な学びの場をつくってきた。

この授業では、生徒が企画する物語創作のワークショップを行う。創作は、試行錯誤と発見の連続である。創作物(作品)の出来不出来にこだわりのではなく、創作の現場に関心をもち、物語ができてあがっていく過程を楽しむことで、創作活動からどのような学びが開かれていくか、生徒たち並びにご参加の方々とともに考えたい。

< Zone A >

協働・共創の場を創るーイノベーションへの一歩ー

【企画・担当者】総合知研究会(SSH 担当)・本校理科教員ほか
連携校教員・連携企業スタッフ

【概要】これからの時代のイノベーションを担う人材には、多様な価値観・発想や資質能力をもつ人々が集う場のなかで新しい価値を生み出す力(「総合知」)が何より求められる。そのために私たちは、資質・能力を「高める」従来型の探究モデルの開発とともに、「異なる他者をつなぎ、自らの見方・考え方をゆさぶる」場の設定を重視しようとしている。SSH研究開発の中心となるこの Zone では、教科・総合・行事など様々な教育の領域における「協働・共創の場」を創造する取り組みを、創っていく過程やそのなかでの教員・生徒の姿を含めて紹介する。また、ラウンドテーブル形式で、参加者と意見交換をする場を設けて、互いにとても新しい発想を得る場を創りたいと考えている。

【キーワード】高大接続、産学連携、教科連携、他校連携、海外連携、対面交流、オンライン交流

< Zone B >

数学科 授業実践交流会～授業を語り合い、授業を共創する～

【企画・担当者】本校数学科教員

【指導助言】横 弥直浩氏(畿央大学 教授)

【概要】数学科では、中学校・高等学校の授業実践を通じた教員同士の学びあいの場として「授業実践交流会」を開催します。本交流会では、本校教員による授業実践の紹介に加え、参加者のみなさまから実際の授業実践について報告していただく方を募り、教材提案や授業の成果・課題について率直に語り合います。生徒の予想外の反応や、思うようにいかなかった点についても共有し、参加者同士で建設的な意見交換を行います。

ラウンドテーブル形式での少人数による実践報告を通じて、より深い対話を実現し、それぞれの実践事例から得られる知見やアイデアを効果的にシェアしたいと思います。授業づくりのヒントや新たな視点を得られる貴重な機会です。職種や校種を越えた交流により、参加者全員が共に学び、共に成長できる実りある場を目指します。

生徒探究成果発表会 2 月 14 日(土)10:15～12:15

本校では、「6 年一貫共創型探究カリキュラム」のもと、各学年の「総合的な学習(・探究)の時間」で探究活動を行っています。

本発表会では、生徒の 1 年間の探究活動の成果発表(ポスター発表・スライド発表)をご覧ください。

4 年(高 1)「基盤探究Ⅰ」 / 5 年(高 2)「基盤探究Ⅱ」(科学探究類型・社会貢献類型) / 6 年(高 3)「基盤探究Ⅲ・PICASO」

ラウンドテーブル 2 月 14 日(土)13:00～15:00

本ラウンドテーブルは、生徒と教師がともに学び合う場です。「令和の日本型学校教育」を実現するために、教師の研修観を転換し、学びの在り方を再構築することを目的としています。教師の学びは、子どもたちの学びの相似形であるという考え方にに基づき、小グループでの対話を中心とします。一方向的な研修ではなく、双方向のコミュニケーションを重視し、参加者同士が互いに刺激し合いながら、お互いの実践を振り返り、今後の実践へとつなげていく場です。この取り組みを通じて、生徒と教師がともに「主体的・対話的で深い学び」を体現する場にしましょう。

【本研究会について】

- ・参加費は無料です。
- ・両日とも公共交通機関でお越しください。
- ・昼食は各自でご準備ください。
- ・お問い合わせ
〒630-8305 奈良市東紀寺町一丁目 60-1
TEL:0742-26-2571
担当:藤井(研究部主任)
メール:fujii-s@cc.nara-wu.ac.jp

【参加申し込み】

下記 QR コード(申し込みフォーム)より申し込みください。
本校ホームページからもお申込みいただけます。

<https://nwuss.nara-wu.ac.jp/>

【申込締切】2026 年 2 月 5 日(木)

※各授業・Zone については、申込状況により、締切前に受付を終了する場合があります。

